

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月30日(火)

《心で信じる事》

今日の第一朗読(ローマ 10・9-18)で、使徒パウロはこのように言っています。「心で信じる」と。では、「心で信じる」とはどういうことでしょうか。皆様を見ていると、信仰の生活をしていても、この人はまだ頭でイエス様を信じている、あの人は心でイエス様を体験している、ということが分かります。いくら素晴らしい祈りを口にしている、この人はまだイエス様に出会っていない、と感じさせられる人もいます。

「心で信じる」とはどういうことでしょうか。分かりやすいように、質問を変えてみます。もし皆様の心が、10リットルの水が入る大きさだとしたら、その中には何が入っているのでしょうか。10リットルの心の中に満ちているものは何でしょうか。そしてその中に、イエス様を信じる心はどのくらいあるのでしょうか。それを考えてみれば、すぐに分かります。私も反省ができます。心の中にどのくらいイエス様のことを置いて生活しているのか、考えてみると恥ずかしくなることもあります。私たちは、つい要らないもの、過ぎてしまうもの、去ってしまうもの、虚しくなってしまうもので自分の心をいっぱいにしてしまいます。そして、そのためにあせったり、腹を立てたり、人を憎んだり、寝られなくなったりします。自分には何の役にも立たないことばかり、心に入れているのではないのでしょうか。

今日の「心で信じる」人は、福音的な観点から見ると一番幸せな人です。自分が、持っている心をどのくらいイエス様のために使っているのか、それを考えてみましょう。そうでなければ、私たちは要らないわずらわしいばかり抱え込んでしまう可能性があります。

今日、使徒パウロはこのような表現をしました。「**良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか**」。日本語では「良い知らせ」と訳されていますが、もとの意味は『福音』、『喜びの便り』、『嬉しい便り』です。心でイエス様を信じない人は、絶対に真の福音を述べ伝えることができないし、心でイエス様の御心を伝えようとする人の足はどのくらい美しいか、とおっしゃっているのです。この使徒パウロの話を私達も胸に刻む必要があるのではないかと思います。

皆様は今までイエス様を信じてきました。個人的な喜びも感じられたかもしれません。では、イエス様を知らない他の人のためにどのくらい喜びを感じられたでしょうか。それも深刻に考えていただきたいのです。他の人のために喜びを感じられないのならば、半分だけの信仰者かもしれません。信仰者として守らなければならないいろいろな掟がありますが、その中から自分に有利なことばかり選んで信仰の生活をしているつもりになっているのかもしれません。

もう一度読みます。「**良い知らせを伝える者の足は、何と美しいことか**」。このような使命は、全てのことを心から考え、感じられる人に果たせるのだと思います。たくさんの殉教者達は、心で信じた

人々だったのでしょ。心で信じたから、イエス様のために命さえ捨てられたのでしょ。

私たちは自分がこの心の持ち主だと思っています。確かにそれは間違えではありません。しかし、心の中の一番大切な存在は、自分ではなくて神様です。イエス様がこの中にいらっしゃる、と思えば私達の生活も価値観も正しく変わると思います。

では、今日の福音(マタイ 4・18 22)に入ります。今日の福音は、4人の弟子たちを選ばれるイエス様の御言葉と、その言葉について行く4人の弟子達の物語です。最初にイエス様が呼びかけるのは、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟で今日の祝日の主人公でもあるアンデレです。続いて、ヤコブとヨハネの兄弟が呼ばれます。イエス様の呼びかけに、この2組の兄弟はどのように応じましたか。シモンとアンデレは網を打っていたところでした。しかし、イエス様の呼びかけを聞いた途端に網と舟を捨ててついて行ったのです。もう少し先へ行くと、別の兄弟のヤコブとヨハネとその父親がいました。イエス様は3人をご覧になって「私について来なさい」とおっしゃいました。するとヤコブとヨハネは、「舟と父親とを残してイエスに従った」と書かれています。舟が意味するものは何でしょうか。彼らは漁師でした。舟は、彼らの生きる手段です。生きるための全てです。そして父親は何を意味するでしょうか。広い意味ではふるさと、頼れるところなどの意味があります。逆に、年をとって弱った親は、守らなければならない対象にもなります。ですから、文章では簡単に書いてありますが、「舟と父親とを残して」ということは、自分の全てを捨ててついて行った、ということです。

では私たちは、ついて行くために何を残したでしょうか。今まで何を残してイエス様についてきたのでしょうか。こういう基本的なことを守らなければ、真のイエス様の御心の体験、救いの体験はできないと思います。

本当にイエス様の味を味わいたい、と思うならば、イエス様がおっしゃった通りに、真似だけでもしようとしてください。そうではないと「イエス様、なぜ私にこんなことが起こるのをお許しになるのでしょうか」といつも文句ばかりの信仰生活になってしまいます。まずイエス様の話を聞いてみて、その通りにしてから、自分の意見を言ってください。今までと全然違う反応が皆様の中に見つかると思います。

もう一回考えてみましょう。**心で信じることです。**それが福音的な幸せにつながる唯一の道であること意識しましょう。頭は捨ててください。口も捨ててください。心から始めてください。そのような心によって、舟も父親も全部神様に委ねることができます。ヤコブとヨハネが父親を残してついて行ったということは、「この父親をあなたにお任せします」という信仰のあらわれだと思います。私たちが神様を信じることができれば、何を恐れるべきでしょうか。恐れるべきものは、何もありません。

ありがとうございました。